



彩の技術士

公益社団法人 日本技術士会 埼玉県支部
The Institution of Professional Engineers, Japan 埼玉県支部

こうほう・Vol.17.2021.5.1.

〒333-0844 川口市上青木3-12-18 SKIP シティ A1-706B
埼玉県支部事務局
Tel.:048-263-0840, Fax.:048-263-0841
<http://www.engineer.or.jp/shibu/saitama/index.html>

目次

巻頭言	埼玉大学副学長	重原孝臣
支部長挨拶	日本技術士会埼玉県支部長	増古恒夫
委員会活動紹介		
総務企画委員会	委員長	村山 肇
CPD委員会	委員長	白岩信裕
科学技術振興委員会	委員長	黒澤兵夫
地域産業支援委員会	委員長	近藤 孝
地域活性化委員会	委員長	穴戸富雄
2020年度技術士研究業績発表大会報告	CPD委員会	横山正巳
CPD講演「中小企業とSDGs」報告	地域活性化委員会	浜端英男
寄稿「防災支援グループの活動報告」（地域産業支援委員）		松本良一

巻頭言 ～これからの技術者～

埼玉大学理事（研究・産学官連携担当）副学長 重原孝臣



重原孝臣副学長

新型コロナウイルスの感染拡大が始まって一年余が経ちました。以前は当たり前であった現場業務、対面業務が強く制限されるなか、この一年、技術士の皆様も試行錯誤の連続であったろうと拝察いたします。技術士の多くは日常、様々な設備・機器の維持管理業務、技術相談に應じる対面業務などに携わりますので、デスクワーク中心の業務とは異なる工夫が求められます。本学でも昨年度は遠隔授業を余儀なくされ、理工系の実験・実習についても遠隔対応が求められました。技術職員のご協力もあって、工夫を凝らしたデジタルコンテンツを準備することができ、一定の教育水準を保つことができました。

「技術」を取り巻く環境も大きく変化してきております。第一に、申すまでもなく、コロナ禍への対応です。多くの技術は現場で「もの」に直に触れて身につくもので、現場に優るものはありませんが、他方、設備・機器のリモート化・スマート化・共用化が今後のトレンドになることは間違いのないでしょう。第二に、AI・IoT・VRなどの最新技術が様々な分野に影響してくることで、これらと無縁で済む技術分野は今後一つもないかもしれません。より広い視点で申しますと、第三に、多様化・複雑化・

グローバル化する社会課題に対する科学技術からの貢献への期待が益々高まるなか、文理協働が強く求められております。科学技術の成果を社会還元するには法律・制度・倫理などの課題もクリアする必要があって、その意味でも、技術士の皆様に期待される知識・経験の幅も今後大きく広がっていくことが予想されます。第四に、技術者に対して、「技術」の使用目的について、これまでも増して深い見識が求められていることです。いわゆる「デュアルユース」にも絡みますが、科学技術の社会的影響力が強まるなかで、科学技術に携わる者の社会的責任も増してきております。最新技術のフォローとともに、将来技術とその社会応用を専門家の立場から見抜く力も求められているように感じます。

激しい時代変化のなか、科学者・技術者への期待は益々高まっております。本学も技術士会の皆様と手を携えて社会の期待に応えていきたいと考えております。今後とも、ご支援・ご協力をたまわりますように宜しくお願い申し上げます。

支部長挨拶

日本技術士会 埼玉県支部長 増古恒夫

新型コロナウイルス感染症へ対応されている医療関係の皆様、また諸官庁の皆様にご敬意を表しますと共にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。また感染等被害に遇われた皆様、ご関係者様にはお見舞い申し上げます。

この感染症により昨年度の支部活動は大きな制約、影響がありましたが、昨年2月から会議等にWebを有効に活用し、当初の計画から一部中止等はありませんでしたが一応の成果を出すことができました。

本年2月、2年に一度の役員改選により本部理事・監事、また当支部幹事も改選され新たな体制が7月より発足します。この2年間支部幹事を務められました皆様には大変ご苦労様でした。また新たに選出された幹事の皆様、宜しくお願いたします。

難関を突破され技術士一次試験、二次試験に合格されました皆様、誠におめでとうございます。日本技術士会に入会され埼玉県支部の活動にご参加をお待ちいたします。

埼玉県支部としては今年度も以下重点事項を推進してゆくこととします。

・公益法人活動として行政、公的機関、大学等教育機関、産業界との交流・連携を引き続き強化し、地域社会経済の発展に向け積極的な活動していくこととします。今期から防災に関する計画（予算）も充実しました。



増古恒夫支部長

・科学技術を通じた社会貢献活動、特に若い方たちへの科学技術啓蒙、行政施策への協力及び提言並びに調査研究に引き続き取り組んでまいります。
・埼玉県支部は発足以来CPD（Continuing Professional Development）研修を充実してきました。Webによる実施も含め、CPD研修を更に充実を目指します。
・埼玉県の全域におられる会員、特に企業内会員の活性化・活動の支援強化も引き続き取り組んでまいります

これらの取組・活動を推進するには皆さまのご理解・ご協力・ご支援が必要です。宜しくお願いいたします。

総務企画委員会

埼玉県支部総務企画委員長 村山 肇

1. 2020年度埼玉県支部活動内容

1) 2020年度下期活動状況：

昨年度は「新型コロナウイルス感染防止対策」のため、埼玉県支部活動が大きく制限され、「活性化交流会」をはじめとした「リアル活動」「懇親会」を中止せざるを得なかった事は極めて残念なことでした。

その対策として、Zoom等を活用した「Webによる活動」が開始されたことは、ある意味では支部活動方法の新たなスタートであったと考えます。

2) 埼玉県支部ホームページ：

埼玉県支部ホームページは、「コロナ騒動」があったものの、上下期を通じ年間行事計画と実績表掲載を始め、新たな行事や活動報告等を逐次更新してまいりました。ホームページの掲載仕様に制限がありますが、より充実させていきたいので、皆様の御意見をどんどん寄せてくださるようお願い致します。

2. 2021年度上期活動方針

新型コロナウイルス騒動は、当分収まりそうにありません。そしてマスクの着用は数年必要と思われる。今後は「感染を抑え」「社会経済を活性化させ」「人々に蔓延した格差等への不満・孤独感を解消していく」必要があります。

我々技術士は、これらの悩ましい課題に対しどのように取り組み対応していけば良いのか等、真剣に考え行動していく必要があると思います。

2021年度は役員改選の年で、25名の幹事により今後2年間の活動が開始されます。上期では5月22日開催の「一次・二次試験合格者祝賀会」、7月31日開催の「年次大会」と代表的な行事が予定されています。スムーズな会員活動が行われる様務めてまいります。

さらに、埼玉県支部の活性化を図るためには、新しい会員の皆様も、積極的に各種行事へ参加していただくことが必要と考えます。ご協力ご支援をお願い致します。

CPD委員会

埼玉県支部CPD委員長 白岩信裕

1. 2020年度の実績と反省

新型コロナウイルスの感染防止のため、前年度末から公共施設や企業、工事現場への入場制限や禁止がありました。結果、見学会は全て中止し、講演会は、会場の収容人員の50%までを参加員とし、参加者には体調のよい場合の参加とマスク着用を求め、会場の換気を進めると共に、入場時の検温、手指消毒、着席間のソーシャルディスタンス確保に努め、実施しました。

2020年度は、他委員会の協力を得、CPDセミナーを計12回（リアル講演10回、WEB講演1回、研修1回）、技術士資格取得希望会（対象：企業・機関、大学）を4回、新規開業セミナーを1回実施しました。一方、他組織との開催（部会との共催或いは県内諸機関・団体の後援）はできませんでした。参加者は延べ331名と昨年比約6割、CPD受講時間は計30時間と昨年比8割弱となっています。技術士資格取得希望会は一般、大学生を対象に384名（昨年比9割）の参加でした。大学での説明会はオンラインで実施されたため、参加者が期待通り確保できたと考えられます。

2. 2021年度の計画

行事参加者の意見や要望を反映しつつテーマを決め、Webの活用を図り、講演会や研修会を行います。見学会は状況が好転次第、開催いたします。計画では他委員会と共同で、県内各所で講演会（見学会を含む）を16回、技術士資格取得希望会を6回、新規開業セミナーを1回開催いたします。CPD受講時間は前年より増え計40時間超えを計画しています。

3. CPD履修の推進

技術士の資質向上に資するべくCPD行事の頻度及び内容の充実を図ります。そのため当委員会は、履修希望の方々が参加し易く有益となるように、行事開催日と場所、内容も検討しています。

会員皆様からのCPDに係るご意見、要望等お寄せ受けております。また現在、CPD委員会活動は十数名の委員が担っていますが、共に活動していただける新規委員の加入を歓迎いたします。

（但し正会員の方、支部委員会での承認が必要です）
これら連絡は支部代表メールアドレス宛てで実施いただけます。

科学技術振興委員会

埼玉県支部科学技術振興委員長 黒澤兵夫

東京大学 高大接続研究開発センター主催のジュニアドクター育成塾が「知識構成型ジグソー法」によりWeb中継で川口市立高校において開催されました。この「知識構成型ジグソー法」は、「話す」、「聞く」、「考える」といった、学習活動の中で学べる「協調学習」の手法の一つです。人とのコミュニケーション/対話という協調学習を通し、課題解決力を深化させる方法であり、

技術士の課題解決に有益であります。

カリキュラムは、「発電と送電」「家庭内の電気の利用」「ヒートポンプ」それぞれの知識構成型ジグソー法による学習と実験及びクロストークと発表・講評です。受講者の感想は、面白く興味があり、よく理解できましたと好評でした。

（写真、ジュニアドクター育成塾のzoomによる開催の様子）



地域産業支援委員会

埼玉県支部地域産業支援委員長 近藤 孝

地域産業支援委員会の重要なミッションは、「技術の力で地域の発展に貢献する」ことにあります。2020年度は『新たな活動の定着化に力を入れる』をスローガンに、活動を続けて参りました。しかしながら、新型コロナのために、オンラインの活動へ切替え、一部の活動は中止せざるを得ず残念でした。

1. 社会貢献活動

- ① 防災支援グループは、立正大学との連携活動を開始し、2020年9月に学生への講義を行い、好評でした。
- ② 「埼玉県中小企業災害復旧支援補助金適正化協議会」の委員として、のべ11名の技術士が参加し、積極的に協力しました。

2. 地域産業支援活動

技術問題にお困りの企業様のご要望にお応えできるよう体制整備を進めていますので、是非、技術士をご活用ください。

- ① 理化学研究所のVCADシステム研究会への

支援を開始し、ガラス成形シミュレーションに必要なガラス物性測定に技術士1名が協力し、有効なデータを取得しました。更に、理研と県内中堅企業とのバトンゾーンの役割を果たすべく準備を始めました。

- ② 商工会議所・商工会との人脈ができてつつあり、地域企業支援の基盤ができてきました。

3. 外部への技術士紹介活動

- ① 展示会は、オンラインのBIZ SAITAMA、彩の国ビジネスアリーナなどに出席し、技術士活動の紹介を実施しました。
- ② 技術士の紹介依頼は、10件受け、6件について技術士が面談にて相談を受けました。

技術士の活動をまとめたパンフ「技術士はこんな支援活動ができます」を充実させ、関係機関に配布して技術士の活動PRに努めています。是非ご活用下さい。

地域活性化委員会

埼玉県支部地域活性化委員長 穴戸富雄

本年度は、新型コロナの影響でCPD行事は大幅な変更となった。活動概要は下記の通りです。

(1) 北部地域小委員会：

年初群馬県支部技術士会と連携でCPD活動を行う予定であったが“見学会は中止”となり、講演会のみ行った。講演会は埼玉県産業技術総合センター（北部研究所）の研究テーマを講演して頂いた。[演題]・白菜頭部結束ロボットの開発 他

(2) 西部地域小委員会：

世界的に活動が広がっている“SDGs”に的を絞り、県内行政機関の取り組み状況をお聞きした。

<主テーマ> 中小企業はSDGsにどう取り組むか

[演題]・県市のSDGs取り組み：埼玉県、さいたま市 ・新型コロナ後のSDGsと中小企業：埼大教授

(3) 東部地域小委員会：

今回は埼玉県支部での初めての試みとして講演会をWebで行った。非常に勉強になった。

<主テーマ> リアル社会とネット社会の将来
[演題] ・安心して住み続けられる都市を目指して ・データ活用できる組織の作り方
次回以降も今回の中身を改善させ開催していく。技術士以外の参加者も参加しやすいテーマを検討していく。

(4) 令和3年度の活動計画：

本年度はCPD活動の“質的向上”を図る

- 1) 地域活動委員の増強
- 2) コロナ後の新しい秩序に対応（Web活用）
- 3) 他県技術士会との交流（CPD行事共催）

以上

令和2年度 各地域委員会主催 CPD 行事一覧表

開催行事	実施日時	演 題	参加者	開催場所	講演者（機関）
CPD 講演会	2020/11/07	中小企業はSDGsにどう取り組むか	39	川越市	埼玉県、さいたま市、埼玉大学
	2020/11/29	リアル社会とネット社会の将来	49	Web	東部地域技術士
	2020/12/12	白菜頭部結束ロボットの開発	23	熊谷市	SAITEC（北部研究所）
見学会	-	なし	-	-	
展示会	-	なし	-	-	

2020年度 研究業績発表会 報告
 埼玉県支部 CPD 委員会 横山正巳

技術士研究・業績発表大会が、2021年1月9日（土）、新都心ビジネス交流プラザにて31名参加のもと開催されました。村山肇総務企画委員長の司会のもと増古恒夫支部長の開会挨拶の後、5名の技術士による発表がなされました。閉会は白岩言裕CPD委員長の挨拶で終わっています。

5名の技術士の発表は以下のとおりです。

発表1. 「埼玉県の土砂災害防止対策」 埼玉県県土整備部 樋口佳意氏（建設・総監）

土砂災害（土石流、地滑り、ガケ崩れ）は命に直結する災害であり、犠牲者の多くは自力で避難できない弱者である。埼玉県の土砂災害リスクは八王子構造線（西部地区）の近くにあるが、近年は気象変化が著しく、低地発生がある。土砂災害対策の土砂を止める対策（ハード対策）と被害を受けない対策（ソフト対策）では、後者に於いて、被害に遭わないよう住民の知る努力と行政の知らせる努力が必要である。即ち、被害に遭わないよう自らの命は自ら守り、知る努力も必要であると話された。



樋口佳意氏

発表2. 「公園池等の水質浄化技術の実証試験における評価方法」 一般社団法人 埼玉県環境検査研究協会 山岸知彦氏（環境）

環境省の環境技術実証事業における閉鎖性水域の水質改善技術の客観的評価について、実際に評価した4か所（①都市公園内池②ゴルフ場内調整池③申請者敷地内観賞池④現在実施中皇居外苑濠）の試験結果が報告された。水質改善対策は各々①浮上分離+凝集沈殿技術②砂ろ過+促進酸化技術③曝気+攪拌技術④凝集沈殿技術、であり、水質データ（COD、SS、透明度、全窒素、全リン等）は何れも改善されたと報告された。



山岸知彦氏

発表3. 「研究用小規模クリーンルームの構築技術」（国研）理化学研究所 関口芳弘氏（電気電子）

大小あるクリーンルームの中、100m²クラスの小規模クリーンルームは、設置条件が多様で、状況に合わせた構築が必要である。実際、恒温恒湿環境を損なわず利便性と省エネなクリーン



関口芳弘氏

ルームを①温度センサーの位置変更による吹出温度一定化、②湿度の露点制御化、③室内の給・排気量の一定化で実現している。また、FIB-SEM（フォーカスイオンビーム走査型電子顕微鏡）の焦点合わせを良くしクリア画像が得られるよう熱回路応用のパッシブな技術で、測定温度幅を微小にし実現している。技術者は、齢を経ると分別能力が深化し、課題解決力が衰えることはないと話された。

発表4. 「ニューノーマル時代の事業継続計画と事業継続管理システム（BCP/BCMS）について」 TAKE 国際技術士研究所

黒澤兵夫氏（情報工学・総監）

ニューノーマル時代における事業継続計画（BCP）と事業継続マネジメントシステム（BCMS）の必要性、重要性について説明された。事業継続には、事業者のリスク評価、災害後の復旧計画が重要であり、組織戦略、BCP目標、目標復旧時点RPO、目標復旧時間RTO等を明示する必要があり、テレワーク、人材流動、デジタルトランスフォーメーションDX等ニューノーマル時代には、ISO22301の新システム監査制度への適合化を要する。適合化を進めた例の紹介と共に、新型コロナウイルス感染やテレワークのセキュリティに関し、その影響をBCPとして取り扱う必要性が話された。



黒澤兵夫氏

発表5. 「安全保障輸出管理の該非判定における技術士の支援業務について」 田原技術士事務所 田原譲氏（金属）

「安全保障輸出管理業務を必要とする背景」には、世界中の紛争で、多数の人命が殺戮兵器で失われているという現実がある。平和と安全のため、先進国保有の高度な貨物や技術が殺戮の脅威にならないよう、国際輸出管理レジーム等に則し輸出管理の該非判定が行われている。我が国の安全保障輸出管理は、技術の提供では外為令、貨物の輸出では輸出令の規定でなされる。それらによる該非判定には、専門性が問われ、対象範囲に合った各分野の技術者の対応が必要であり、技術士は適格な存在である。当該業務に携わることは、国際社会の健全な産業活動に寄与し、平和と安全の維持に貢献すると話された。



田原 譲氏

CPD 講演会報告

埼玉県支部地域活性化委員会 浜端英男

1. はじめに

昨今、企業の社会との繋がりにおける重要な動きとして、CSR とともに SDGs (持続可能な開発目標) が注目を浴びている。地域活性化委員会西部地域小委員会では、中小企業を支援する立場から SDGs への正しい理解が不可欠と考え、「中小企業は SDGs にどう取り組むか」というテーマで CPD 講演会を開催したので報告する。

開催日：2020年11月7日

場所：川越市、ウエスタ川越

講演：さいたま市及び埼玉県 SDGs 担当及び
埼玉大学大学院広田幸紀教授による3講演

2. 講演内容

①さいたま市における SDGs 取組みについて

講師：さいたま市都市経営戦略部主任 赤羽伴内氏、同商工観光部経済政策課主事 小久保鉄平氏
県内初の「SDGs 未来都市」に選定されたさいたま市の SDGs への取組み状況に加え、その達成のキーファクターである中小企業の CSR 経営推進について、事例と共に話された。

「SDGs 未来都市」とは、SDGs の理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域。2019年全国32都市が選定されたもので、さいたま市はその一つ。さいたま市は SDGs の方法論として CSR 経営を推進しており、そのための支援内容などの話が中心であった。

②埼玉県環境分野の SDGs 取組について

講師：埼玉県環境部環境政策課副課長 赤松真一氏
埼玉県は、今年度から SDGs に本格的に取組を開始されていますが、環境分野に関係が深い SDGs の9つのゴールに関する取組を中心に事例を交え話された。大野知事の方針に従い、今年度から SDGs の取組を強化し「環境」分野を先行してスタートした。県内企業に SDGs パートナー登録制度を設け支援しており、9月から登録受付を開始しているが既に20社以上の企業、団体が登録。それら企業の取組み内容の紹介があり、聴講者には具体的な実施例として参考になった(アンケート結果)と好評であった。

③新型コロナ後の SDGs と中小企業

講師：埼玉大学大学院人文社会科教授 広田幸紀氏

JICA(国際協力開発機構)で SDGs に携わったご経験を踏まえ、SDGs の生い立ちから今後の展開について公共経済の立場から話された。

併せて、中小企業の取組み例もご紹介いただき、中小企業の SDGs 取組みの方向性を提示された。

講師は JICA で携わった開発途上国を対象にした MDGs が SDGs の起点になっていること、SDGs とビジネスの関係など興味深い内容であった。さらにその後の流れとして国際的には ESG (環境、社会、ガバナンス)投資が伸びていること、それが SDGs につながっていることを強調。期待していた新型コロナ後の SDGs の展開については、時代の流れとして SDGs 重視の方向性は変わらないという見通しであった。

アンケートにも記載されていたが、全体として内容にストーリー性があり分かりやすかったと好評であった。

3. おわりに

SDGs (持続可能な開発目標) は国連が2015年に採択したものであるが、日本政府は翌年「推進本部」を立ち上げ、2018年からは毎年「アクションプラン」を作成公表している。

2020年版には“中小企業の SDGs 強化のための関係団体、地域・との連携を強化”と掲げている。

技術士は地域の関係団体の一員として中小企業との連携を図りながら、技術部門を横断した、総合力を生かした SDGs への取組みが望まれる。

今回の CPD 講演会がそのことを考える契機になれば幸いである。



2020.11.7 ウエスタ川越での講演

寄稿「防災支援グループの活動報告」

松本良一 工学博士・技術士（建設）・地域産業支援委員

本稿では、2019年9月に地域産業支援委員会の中に発足した防災支援グループの活動を以下に記します。

I. 防災支援グループの目的

- (1) 市民講座などの開催を支援して防災支援活動を広める第1歩とする。
- (2) 防災支援グループメンバーがDIGを実施できるスキルを身に付ける。

II. 防災支援グループ発足の背景

近年の大規模災害（地震、津波、水害など）では、公助の限界と自助・共助の必要性が取り上げられています。すなわち、公助に依存する防災対策には1～3の課題があり、自助（自分の身は自分で守る）が不可欠で、そのためには、自分たちが住む国土の気候や地形、水害の歴史を知っておく必要があります。

1. 人口減少による人手不足と財源不足による公助の限界を周知
2. 公助の限界について住民の合意形成
3. 避難情報の不足を改善

- (1) 自己判断できる情報不足
 - ① 避難情報がタイムリーでなく、入手方法が不明な場合が多い。
 - ② 最近では改善されつつあるが、情報が多くて混乱しやすい。
- (2) 情報の理解不足
 - ① 情報が分かりにくい。
 - ② 住民などの聞き手の知識も不足している。

また、国や自治体などによる防災活動は、発災時や被災後の対策が中心となっており、発災しやすい箇所とその原因などの広報や教育が不十分です。

III. 活動状況

発災前の防災支援活動の一環として、住民への伝達が課題と考えています。

1. 住民への伝達方法（住民参加型のDIG）の課題

- (1) ファシリテーターの確保
- (2) 住民の信頼性（中立公正な立場）を高める大学の参画
- (3) 防災支援グループメンバーのスキルアップ
- (4) 開催費用と報酬

2. 課題への対応

(1)(2)について、立正大学において学生教育の一環として、DIGの講義により学生がファシリテーターのスキルを身に付ける了解を得ることができました。2020年度は事前学習として、気候、地形、被災事例、浸水予想範囲、DIGとは何かなどの特別講義を行っています。

(3)について、ファシリテーターの経験者が少ないため、メンバーのスキルアップと地域特性の把握を目指して、メンバーだけでDIGのリハーサルを計画しています。

(4)について、開催費用として、リハーサルと大学での講義に伴う交通費などの経費を対外活動費として申請しています。報酬は、現時点では得られる可能性は低く、公益活動の一環と考えています。理由は、防災活動は非営利性が求められることが多いからです。

IV. 今後の活動

スキルを身に付けた学生が防災支援活動に参画することを期待しており、これにより活動の輪が広がるだけでなく、活動が活性化すると同時に技術を継承できます。そして、行政にも働きかけて市民講座への参画を要請したいと考えています。

また、水害の危険性が高い地域にDIGによる防災支援活動を広めていく意義は大きく、対象地域との関連性が強い大学に参画を依頼して行きたいと考えています。



松本良一氏

2021 年度埼玉県支部 行事予定

	日	曜日	役員会	幹事会	合同行事	CPD・地域活性化 委員会等行事	科学技術 委員会	地域産業支援 委員会
4月	10	土	第1回役員会					
						(大学)技術士制度説明会		
5月	8	土		第1回幹事会				
	22	土			新合格者祝賀会			
6月	5	土	第2回役員会					
	26	土			新幹事(江ノ子)	コーチング体験研修会		
7月	3	土		第2回幹事会				
	24	土	臨時役員会					
	31	土			年次大会			
8月	7	土	第4回役員会					
							夏の学校	
9月	4	土		第3回幹事会				
10月	9	土	第5回役員会					
						合同見学会(群馬県)	公開理科教室	
11月	6	土		第4回幹事会				
					産業活性化交流会			産業交流展
12月	4	土	第6回役員会					
1月	8	土		第5回幹事会		研究業績発表会・新年会		
						新規開業セミナー		ビジ初アサ
2月	5		第7回役員会					
3月	5	土		第6回幹事会				
						技術士資格取得説明会		

(注)「行事計画は予定ですので、都度埼玉県支部HPを参照・確認してください」

埼玉県支部協賛団体の紹介

(団体名は加盟順)

1. ベルセッジ・インコーポレイテッド
(代表：菅原宏様)
2. NPO法人 彩の国技術士センター
(代表理事：飛坂基夫様)
3. 有限会社 中村金属工業
(社長：三木虎雄様)
4. 共和コンサルタント 株式会社
(社長：小山一裕様)
5. 一般社団法人 技術士さいたま
(理事長：中村憲雄様)
6. 株式会社 テクノクオリティー
(社長：渡部隼範様)
7. 株式会社 日さく
(社長：若林直樹様)

編集後記

コロナ騒動が収まらないとは言え、こうほうの発刊が前報同様予定より一か月遅れてしまい、申し訳ありませんでした。

コロナワクチン開発に取り残された日本の医療体制・技術はどこまで世界に追いつけるのでしょうか、心配です。

こうほうのワンパターン化から脱皮するべく、前報から「投稿欄」を設けました。今回は「防災」関連です。今後、いろいろな分野における活動内容を紹介していきたいと考えます。皆様の御意見をどんどんお聞かせください。

[埼玉県支部総務企画委員会]

おくづけ 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部
 こうほう・彩の技術士 第17号
 発行年月日 2021年5月1日発行
 発行者 埼玉県支部(支部長：増古恒夫)
 E-mail saitama@engineer.or.jp
 編集 埼玉県支部総務企画委員会